

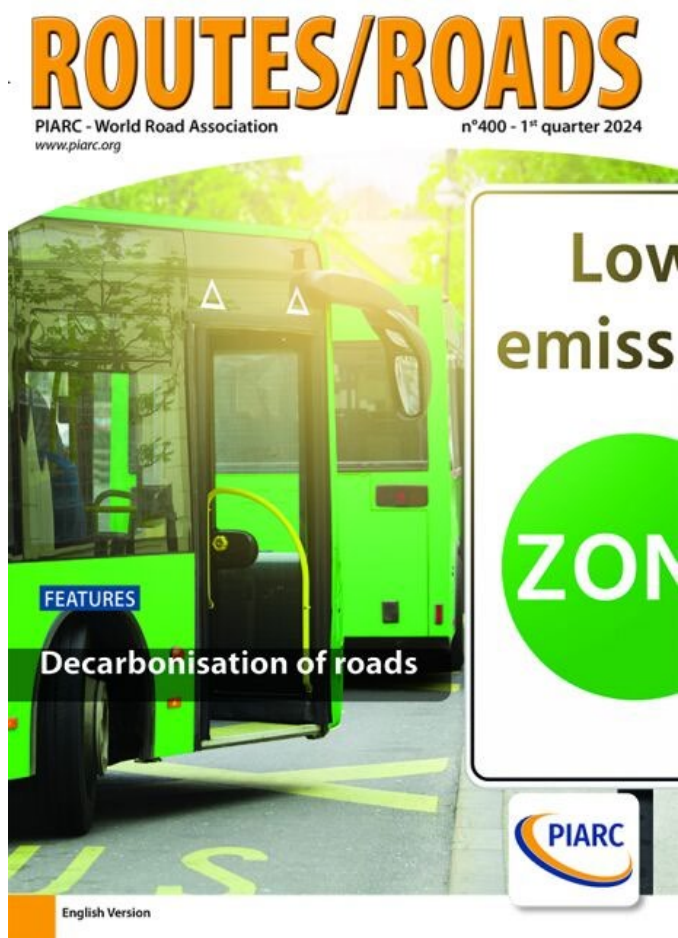
令和6年6月

PIARC 日本国内委員会からのお知らせ

PIARC 団体会員および個人会員の皆さまへ

日頃より PIARC 活動へのご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。ROUTES/ROADS 最新号とともに、PIARC 技術委員会等によるレポートをご案内いたします。ROUTES/ROADS は 1911 年の創刊以来 100 年以上にわたって発刊されており、この度 400 号を迎えました。節目となる最新号の特集は、「道路の脱炭素化」です。2023 年 7 月、国連のグテーリ議長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と警告しました。それを裏付けるかのように、先日、EU 気象機関は世界の月平均気温が 2023 年 6 月～2024 年 5 月の 12 か月連続で最高を更新、その平均気温は産業革命前と比較して 1.63 度上昇したと発表しました。また世界気象機関によると、今後 5 年以内に少なくとも 1 年は過去最も暑かった 2023 年を上回る可能性が高いと予測しています。短期的であれ、2015 年のパリ協定で合意された 1.5 度の防波堤を破る記録が続いている現実に、脱炭素対策は待ったなしの急務と言えるでしょう。PIARC においても脱炭素に特化したコーディネータや委員会を設置し、道路分野における脱炭素化の調査・研究に力を入れています。最新号では、特にアスファルトに関連する各国の脱炭素対策や最新技術による事例等を紹介しております。日本の取り組みとして再生アスファルトの紹介 (P.37) も掲載されております。未曾有の自然災害を引き起こしている気候変動。それを加速させる地球沸騰化。喫緊の課題である脱炭素は、道路分野においても最重要視されています。

1. ROUTES/ROADS 最新号 (400 号)



加ガリ冬期大会に続き冬期サービスに加えてレジリエンスがテーマとなります。早くも今秋には大会に向けた論文募集が開始される予定です。会員の皆さまには、当協会からもご案内をさせていただきます。

【新テクニカルアドバイザー (TA) のご紹介】

2024 年 3 月より、PIARC 本部事務局 (フランス) にて、妹尾様の後を継ぎ TA を務めている広地 (原籍: NEXCO 東日本) と申します。主に ST-3 (安全と持続可能性) に属する技術委員会やシャペリ大会の論文募集等に関する業務を担当致します。日本の皆さまの活動のサポートにも努めて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

2. 今号の主な記事の紹介

- ✓ プラハ大会において初開催：脱炭素化と道路建設・管理の循環経済に関するワークショップ -13 頁
- ✓ メキシコのアスファルト舗装における循環経済 -15 頁
- ✓ ロード・フォワード -18 頁
- ✓ フランスのアスファルト産業の脱炭素ロードマップ -21 頁
- ✓ 道路設備セクターと脱炭素化 -24 頁
- ✓ 南アフリカのアスファルト産業におけるカーボンフットプリント削減の進展と継続的なコミットメント -28 頁
- ✓ ネット・ゼロへのオーストラリアのコミットメント -33 頁
- ✓ アスファルトの再利用 (日本) -37 頁
- ✓ アスファルト乳剤 - アスファルト舗装と道路の脱炭素化のための優れた技術 -40 頁

【特集】道路の脱炭素化

【PIARC 日本国内委員会よりお知らせ】

2026 年 3 月に開催されるシャペリ冬期大会は、前回

3. PIARC テクニカルレポートのご紹介

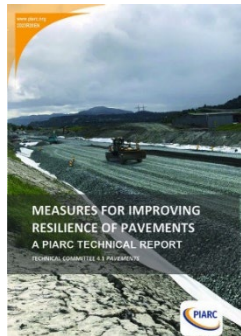
今回は脱炭素の取り組みに関連する PIARC テクニカルレポート 3 本をご紹介します。

【レポート名】

舗装のレジリエンス向上のための対策

【レポート概要】

本報告書には、各国の事例収集・文献収集を通じて、様々な影響（気候変動に伴う温度上昇や凍結融解サイクルの変化、車軸変化や隊列走行による交通荷重の増、災害等）を受ける舗装のレジリエンス向上の対策がまとめられています。例えば、近年の交通荷重の増要因として、本書ではトラックの隊列走行やダブルタイヤのスーパーシングルタイヤへの置き換えりが舗装へ与える影響等を紹介しています。また、気候変動による暑さの長期化は、特に交通負荷の大きい路線では、舗装耐久性へ影響を与えると指摘しています。この対応策として、例えばドイツでは路肩及び走行車線（最も大型車が多い車線）のみコンクリート舗装を適用する試験を行い、現時点では良好な結果が得られているとの興味深い報告もあります。その他、舗装の種類やライフサイクルに応じたレジリエンス向上のための各国の取組事例も多数紹介されています。



【レポート掲載ページはこちら】

[Measures for improving resilience of pavements](#)

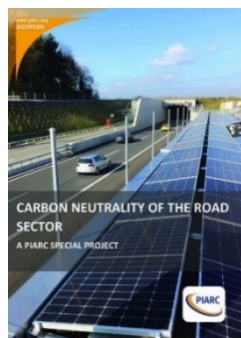


【レポート名】★再掲★

道路セクターにおけるカーボンニュートラル

【レポート概要】

本報告書は、脱炭素を取り巻く各国の道路セクターの政策・技術の先進事例を収集し、定量的な効果や適用可能性を検証したうえで、今後の対応を提言しています。全世界での道路セクターにおける CO2 排出量は全排出量の 2 割に及ぶとされており、利用者による排出量が圧倒的ではあるものの、道路管理者の政策により利用者の CO2 低排出運転への移行を



促進する必要があると述べています。道路容量の需要と炭素排出削減の課題とのバランスという難題への対応として、英国ウェールズでは「持続可能な交通階層」という概念を導入し、歩行者・自転車利用、次いで公共交通を優先する再検討プロセスを含めることで、炭素量排出の削減を目指す取り組みを実施しています。また道路提供者が直接対策可能な道路建設時や維持管理（特に照明）の脱炭素に関する先進事例も多く掲載されています。さらに今後の行動プランとして、戦略立案、意識面、連携や基準整備等様々な面からの提言が言及されています。

【レポート掲載ページはこちら】

[Carbon Neutrality of The Road Sector](#)

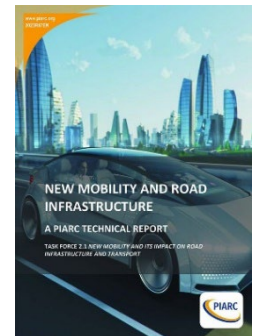


【レポート名】

新たなモビリティと道路インフラ

【レポート概要】

TF2.1「新たなモビリティとその道路インフラ・道路交通への影響」は、自動運転、コネクテッドビークル、協調 ITS、次世代 ITS、E デリバリー、電気自動車、MaaS といった新たなモビリティの影響、特に計画、運用、維持管理段階でのハード・ソフト双方の道路インフラへの影響を、道路管理の観点から検討しています。道路管理における新たなモビリティの影響についてアンケート調査を実施するとともに、各技術の現状、課題および将来の展望を考察しています。また、技術面だけではなく、財務、社会的影響、中・低諸国等の分野横断的な課題についても検討されています。



本報告書の結論では、急速に変化する状況下では、道路管理者がオープンマインドを持ち、知識を蓄積していくこと、他の利害関係者との議論や協力にオープンでいること等の提言がされています。

【レポート掲載ページはこちら】

[New Mobility And Road Infrastructure](#)



PIARC 活動に関するご意見、ご質問等ございましたら、以下までご連絡いただければ幸いです。

PIARC 日本国内委員会事務局 安藤: ando@road.or.jp

PIARC 本部事務局 広地: go.hirochi@piarc.org